

<問い合わせ状況 2025年5月>

院外処方せんに関連する問い合わせ

当院は院外処方せんを発行しています。処方内容などに疑義が生じた場合の窓口は薬剤師となっており、月に5~10件程度の問い合わせに対応しています。5月の疑義照会は5件で、内容は以下の通りでした。



●その他 (5件)

- ・別科の医師の処方が出ている
- ・レキサルティ開始用量確認
- ・前回臨時として処方されたカロナール[®]が今回も処方されている
- ・残薬調整や処方薬変更に伴い、同じRp内の他の薬剤も消えている



薬に関する問い合わせ(患者・家族・施設より)

患者さんやご家族、施設の方からの質問にも対応しています。

5月は1件質問がありました。

- 副作用歴のある薬剤が処方されているが、いつから服用しているのか?
→当院入院日より処方あり。記載されていた副作用は発現していない。



薬に関する問い合わせ(院内より)

他部署スタッフからの質問にもお答えしています。記録してあるDI室への問い合わせは、5月は5件でした(病棟で直接質問されたことは未記載の可能性あります)。

◎がついたものについては回答をDIニュースNo.469に記載します。

◎アスピリン喘息患者にプレドニン[®]注は使用可能か

●エクメットの代替薬は? → エクア[®] + メトグルコ[®]

●オラビ[®]錠の代替薬は? → フロリード[®]ゲル

●ドパコール[®]錠とマグミット[®]錠を同時に簡易懸濁すると黒くなるがどうすれば良いか
→ 懸濁後10分以内の投与であれば問題ない。または別々に懸濁を行う。

◎ジクトル[®]テープの最大処方量は?

